

令和4年度 いのちの授業 事例集（高校）【特別活動】

掲載数

95

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市立	高1	特別活動	薬物乱用防止教室	主に身近なタバコについての危険性を講演していただいた。依存性について、国内だけでなく海外のCMやメッセージ性の強い映像・リアルな資料を沢山紹介していただいた。これだけタバコが危ないといわれているが規制の緩いタバコ産業の背景、タバコを作っている子ども達のこと、普段では知ることができないような話もしていただき、生徒達も熱心に聴いており、危機意識が高まった様子であった。講演終了後、自分の家族にも内容を伝えたいという感想が多かった。	とげぬき地蔵尊 高岩寺 住職/医師
2 川崎市立	高3	特別活動	3年生性教育講演会	「いま知っておきたい性のこと」をテーマに、性の多様性、性感染症、避妊について講演していただいた。様々な性の在り方について学びを深めると共に、性だけでない、年齢、国籍、職業など様々な違いがある中で、自分と相手を大切にすることが伝わる講演となった。普段の授業では取り扱うことのない題材に、生徒も関心をもって聴講する様子が見られた。講演会終了後のアンケートには、性を肯定的に捉え、相手との違いを受け入れることに積極的な感想が多かった。	埼玉大学 准教授
3 川崎市立	高3	特別活動	SOSを出すことの大切さ	家族との関係や、クラス、部活動内のトラブルが精神的な負担となって、登校しなくなったり体調をくずしたりするケースが散見される。小さな諍いや言い合いであっても心の中でしこりとなって気持ちが傷つけられることがある。そんな時にどう対応するかを考える授業を行った。①気持ちが傷ついた、重荷になってしこりが消えなかった経験を思い出す。どうやって乗り越えたかを思い出す。②自分の好きなこと、得意なこと、大切にしていることなどを書き出し、それが自分を支えているエネルギーであることに気づかせる。③SOSを出すとしたら、誰がいるか、どんな方法で伝えるかを書き出す。④上記をできる範囲で共有し、心の重荷を軽くする方法があることを確認する。	LHRとして実施、「SOSの出し方・受け止め方教室」資料
4 川崎市立	高複合	特別活動	「性と生を大切に～知っておきたい身近な性感染症～」	性について、科学的に正しい知識をもち、性感染症を未然に防ぐことや、相手に対する思いやりの心を持つことの大切さを学んだ。 性は多様（心の性、人を好きになる性、表現する性）であり、自由であってよいが、自己を尊重する気持ちを忘れず、正しい情報選択をするよう学んだ。	講師：横浜国立大学 教授 性教育・性感染症に詳しい先生

5	川崎市立	高複合	特別活動	「デートDV 予防ワーク ショップ」	デートDVに発展するドラマを視聴し、ここで、この人はどういう対応（言葉かけや表現・態度など）をすれば良かったのか、トラブルを防げたかなど、ワークシートに記入してもらった。何人かの生徒に回答を発表してもらい、他人の考えを聞くことで、より他人を思いやる気持ちの大切さを考える良い機会となった。	①NPO法人エンパワメントかながわ ②川崎市男女参画センター ③市民オンブズマン事務局
6	横須賀市立	高複合	特別活動	性教育 薬物防止	性教育と薬物乱用の専門家を招いて講演会を実施した。講演内容は、今の高校生の実態に即した思春期の心と性や性感染症、性の多様性・ジェンダーアイデンティティ、薬物の危険などとした。講演会後に振り返りを行ったことで、自分自身や家族、友人の尊さ、いのちの大切について考えるきっかけとなった。	
7	横須賀市立	高複合	特別活動	思春期の心と性 ～いのちの授業～	講師の先生をお呼びし、左記のテーマで講演を行った。いのちの誕生に関わる助産師の立場から、生命誕生の神秘、いのちの尊さを伝えることで、自分を大切に思う気持ちや自尊感情を育てること。他人への思いやりをもって社会の中で力強く生きていくことの大切さを説かれていた。生徒は熱心に話を聞き、大変有意義な講演会となった。	講師は、横須賀市助産師会 かもめ助産院 助産師
8	神奈川県立	高1	特別活動	性講演会	事前アンケートで生徒の興味関心が高かった「恋愛」「出産育児」「性感染症」などのテーマについてスライドや動画等の資料を用いて説明し、セクシュアリティは一人ひとり異なり、そのどれもが基本的人格の一部として尊重されること、他者のセクシュアリティも尊重すること、他者に触れる行為には同意が必要であること等を学習した。スマートホンを用いた実験では、実際に人それぞれ恋愛関係において重視する項目が全く異なることを体験し、また身近な教員の出産育児の体験談を聞く機会も設けた。生徒の感想では、普段聞けないことを真面目に話してくれて有意義だったという声が多く聞かれた。	講師は、公立大学教育学部教授および本校の養護教諭 (参考資料) 国際セクシュアリティ教育ガイダンス (ユネスコ編 明石書店)
9	神奈川県立	高1	特別活動	防災教育「地震 からいのちを守る」	大地震が起きた後の行動について、「目黒巻き」という教材を用いて学習している。生徒は事前に、大地震が起きた後、自身はどのように行動し、また周囲ではどのようなことが起きるか、どのように身を守ればよいかといった点について、想像力を働かせ、また調べ学習を進めながら資料にまとめる。その後、お互いに成果物について発表し、講師から講評をいただいている。これまでの防災教育では考えの至らなかった細かな点にも、生徒は想像力を働かせて気づくことができている。例年は上記の通り実施しているが、今年度は消防署職員の方の来校・講評は予定していない。	(近隣消防署職員)
10	神奈川県立	高複合	特別活動	いのちの大切さ と思いやりにつ いて	将来の社会の担い手となる生徒たちに、「いのちの大切さ」や「他者への思いやり」に関する内容とともに、コロナ禍における自分の行動や日常生活全般について考えさせる講話を行った。 担任の面談と併せて、改めて自己を顧みるよいきっかけとなった。	全校集会における校長による講話

11	神奈川県立	全学年	特別活動	交通安全教育 「スケアード ストレイト」	本校は近くに国道467号線や工業団地があり、トラックなどを含む交通量が多い地区にある。自転車通学を許可しており、在学中に免許を取得する生徒も多く、自身の運転技術を過信することなく安全運転をさせることが大切であると考えている。 今回はスケアードストレイトで事故の再現を見たり体験したりすることで、自身の運転マナーの見直しをしてもらう機会とした。また、警察から自身が気を付けていても交通事故に巻き込まれてる危険性についても講話していただいた。	講師：シャドウプロダクション 指導：藤沢北警察署
12	神奈川県立	高2	特別活動	薬物乱用防止教室	講演会を通じて、生徒が薬物に対する正しい知識を得て、適切な行動選択と意志決定ができる資質と能力を身に付ける機会とする。	・講師：保健福祉事務所職員 ・PC、プロジェクター、スクリーンを使用
13	神奈川県立	高複合	特別活動	防災喫食訓練	平成22年3月11日に東日本大震災が発生して以降、大規模地震の発生が危ぶまれるほか、全国各地で豪雨や土砂崩れなどの災害が相次いでいる。本校は、防災対策強化地域内にあり、災害への備えが強く求められている。 そこで、今回は各HRで喫食訓練を実施し、訓練を通じて自他のいのちを守ることの大切さを学ぶ。	・高1・2年 ・災害備蓄食料、PTAからの差し入れ ・放送を使用
14	神奈川県立	高複合	特別活動	いじめ被害者について	「1ニュートンの勇気」というアニメーションを鑑賞した後、神奈川被害者支援センターの職員より話を聞き、いじめといじめ被害者について考えた。	神奈川被害者支援センター 1・2学年
15	神奈川県立	高複合	特別活動	防災訓練	大地震が起きた際に生徒等の生命・身体の安全確保を図ること、また教職員・生徒の防災意識の向上を図るとともに、大地震の際に適切な対応がとれるよう日頃の備えを万全にすることを目的とした。 地震による校舎倒壊のおそれがあり、また一部停電にもなったという想定で実施した。定時制でもあるので、暗い中でも冷静に行動し、適切に避難経路を確保して安全な場所に非難ができるよう教職員・生徒が取り組んだ。このような訓練を通して地震発生時にまずは自分の命を守るための行動がとれるように意識を高めることができた。	
16	神奈川県立	高複合	特別活動	D I G 研修	災害発生時に安全な場所に速やかに避難できることを目的として実施した。 ハザードマップがどのようなものであるかを学び、ハザードマップを用いて学校周辺の危険箇所や災害時に利用できる避難場所を確認した。また、自宅周辺などにそのような場所がどこにあるのか日頃から観察する習慣を身につけさせ、自宅にいる時に災害が起きた際に自分の命を守る行動がとれるよう考えさせることができた。	
17	神奈川県立	高複合	特別活動	DIG研修	学校周辺の防災上の危険地域や避難場所の確認し、防災意識の向上を図った。	学校周辺地図 南区防災マップ

18	神奈川県立	高複合	特別活動	防災について考える	シェイクアウト訓練・避難訓練を通して、安全な行動を取れる力を身につけ、机上では校外で災害にあった場合のとりべき行動について考えさせた。	全校生徒
19	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全教室	「スケアードストレート」方式による「交通安全教室」スタントマンが、実際に起きた交通事故を再現、ルール違反がいかほど危険であるかを視覚的に理解させ、命の大切さを考えさせる。	全校生徒
20	神奈川県立	高1	特別活動	「命の大切さを学ぶ」	映画「コウノドリ」を見て、『生きるとはどういうことか』『死ぬとはどういうことか』を感じた。生命を尊重する心、相手を思いやる心、そしていのちの大切さを思い起こすきっかけになった。相手を尊重し、自分のいのちも他人のいのちも大切だと、改めて思えるきっかけ作りになった。医療者が、生命を救うべく努力する中で、どうしても避けられない死や、生きていてもなお辛い現実を知り、生命の神秘やその連続性から実体験としての『いのち』を学ぶことができた。自分が生まれてくるのがどんなに奇跡的なことか、出産することがどれほど大変なことか、産科医や助産師が、いかに懸命に命と向き合っているかを学習できた。	学年団
21	神奈川県立	高複合	特別活動	いのちの大切さを学ぶ教室	目的：犯罪の被害者やその家族の置かれた状況等について知り、「命の大切さ」について考え、自分だけでなく他人の命も大切にするとする心を育む。またそれによって社会全体で犯罪被害者等を思いやり支える機運を醸成し、自らが加害者になってはいけないという規範意識を向上させる。	1.2年対象 3月実施予定
22	神奈川県立	高複合	特別活動	防災訓練	目的：生徒・職員を対象として、災害発生時避難経路の確認をし、迅速かつ安全な避難行動を確認した。また、災害発生時における生徒の行動確認と校内防災組織を再確認し、防災意識を高めた。	全学年実施
23	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育「避難訓練」	学校で災害（地震）が発生したときの避難訓練を実施した。その後、東日本大震災発生時の状況等について改めて確認し、自分のいのちを守るためすべきことをグループごとに考えた。まず自分のいのちを守る行動をとること、次に高校生として周りの人のいのちを守るためにどのように状況判断を行い、行動するかを考えた。	全校生徒対象
24	神奈川県立	高1	特別活動	薬物乱用防止教室	映像資料を見た後にグループで話し合いを行い、薬物乱用の現状、心身への弊害、薬物の誘惑に対する対処法及びいのちの大切さについて考えた。	薬物乱用防止啓発映像【大麻の誘惑】警視庁公式チャンネル
25	神奈川県立	高複合	特別活動	命の大切さ	1学期オンラインによる終業式で、それぞれの命を大切に過ごしてほしいという校長講話があった。その後、竹内まりやの「いのちの歌」の歌詞を一文ずつスライドで映しながら校長がアカペラで独唱した。「いつかは誰でもこの星にさよならをする時が来るけれど命は継がれてゆく」というような歌詞により、命に感謝する気持ちを伝えた。講話だけよりも「いのちを大切にしてほしい」という気持ちが伝わったと感じる生徒もいた。	講師は本校学校長 歌手・竹内まりやの「いのちの歌」

26	神奈川県立	高1	特別活動	「命の授業」	1学年の遠足代替レクリエーションの中で実施した。スキー事故、事故による頸椎骨折・全身麻痺から社会復帰するまでの講師の実体験を講演会形式で伺った。講師は事故を経たからのリハビリの様子、その時の心情などを詳しく話し、どう生きべきかを生徒に語りかけた。生徒たちはその話を真剣に受け止めた。	講師は、スキー事故で障がいを抱えた自らの経験を通し、命の大切さを全国で講演している元中学校体育科教諭。
27	神奈川県立	高1～高3	特別活動	防災 「避難訓練・防災学習」	シェイクアウト訓練の音源を利用し、地震が起きた際にまず身を守る基本行動が取れるようにした。 (机の下に潜れない場合は、頭を机の下に入れ保護した。)その後学年ごとに時間差をもうけ、グラウンドへの避難を行った。その際、実際に災害が起きた時のことを想定し、避難するように伝えた。避難開始の放送を入れてから各クラスがグラウンドで人数確認終了までの計測を行った。グラウンドから戻った生徒は待機時間を利用し、ワークシートに取り組んだ。全員が教室に戻った時間をみて、放送で校長先生に講評をして頂いた。生徒のアンケートはグループフォームで用意し実施するとともに、職員にもアンケートを取り今後の改善を図った。	本校作成の移動経路図をクラスごとに確認することで、実際の移動のイメージをに近い形で確認を行った。 同様に本校作成のグラウンドと体育館の並び順を確認し、避難後の動きについても整理できた。
28	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育 「シェイクアウトと避難訓練」	一昨年、昨年と新型コロナの影響で避難訓練が実施できなかったが、今年度は実施することができた。 防災訓練を生徒の「命を守るための訓練」として位置づけ、防災に対する意識を高める機会として捉え、避難訓練を行うことでしか身につかない災害に対応する力があることを念頭において行った。また一人一人が自分事として避難訓練を捉えることを重要視した。	
29	神奈川県立	高1	特別活動	性教育講演会	対面による講演会(50分)を体育館で受講した。 内容は、思春期の性について正しい知識を持ちお互いを大切にすること、望まない妊娠や性感染症の予防についてなどだった。 子宮頸ガンや性感染症、エイズについての理解を深め、自分や大切な人の身体や健康を考える貴重な機会になった。	昭和大学教授
30	神奈川県立	高1	特別活動	食育講演会	オンライン講演会を教室のテレビで受講した。 内容は、生活習慣向上のための食育についての講演でした。「早寝・早起き・朝ごはん」をキャッチフレーズに、規則正しい生活習慣を確立することで、元気で強い身体を作り、さらに充実した人生を送ることに繋がるということ学び、健康を考える貴重な機会になった。	公益財団法人ダノン健康栄養財団 管理栄養士
31	神奈川県立	高1	特別活動	薬物乱用防止教室	健康教育の一環として、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成を目指して、薬物乱用による心身への影響、依存症、社会生活や家族への影響について理解させ、誘惑があったときに生徒が適切な行動を選択できるような資質の形成を行った。	動画視聴

32	神奈川県立	高1	特別活動	「DIG（災害図上訓練）」	第1学年全クラスで、本校周辺の災害図上訓練用の地図を用い、グループごとにDIGを実施した。本校周辺の危険と思われる場所、帰宅する際に気をつけるべき場所、コンビニ、病院など重要な施設等の場所を確認し、全体で共有した。また、それらに基づき、災害時、負傷者がいた場合、どのようにして病院まで連れていくことが最善か、集団で帰宅する方法、学校で避難生活をする場合、必要な物品やその調達方法などについてグループ討議を行い、全体で共有した。	1学年クラス担任 ・副担任 災害図上訓練用地図
33	神奈川県立	高1	特別活動	性教育講演会	エイズや新型コロナウイルス感染症、LGBTや避妊・性についての知識のみならず人のかかわり方などこれからの人生において直面する課題について具体的に話していただき、生徒が考える機会となった。	NPO法人ピルコン理事長
34	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育 ①火災避難 ②洪水氾濫 ③内水氾濫	①各HRでMeetを使って校内で火災が発生した際の避難経路の確認をさせた。 ②本校や周囲には大雨になると災害が発生する恐れがあるのでハザードマップを配付して確認させた。 ③水害発生メカニズムで内水氾濫とは何かを確認させた。 ・ハザードマップを配付し確認させたことは命を守る行動、備えについて考えるよい機会となった。 ・多摩川が氾濫した場合について、生徒は熱心に自分の家を地図で確認していた。	複合学年：高1・高2・高3、 教材：①内閣府「避難指示で必ず避難」、②川崎市「洪水ハザードマップ」、③川崎市「内水ハザードマップ」、 ※神奈川県作成YouTube動画「災害 その時を生きのびるために～風水害編～」
35	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育 「大災害からいのちを守る」	大地震等の災害時に学校から帰宅することを想定し、自宅付近の中学校区に分かれ、全学年混成による帰宅グループを編成した。帰宅グループの中で、学校から徒歩での帰宅ルートを構築し、ルート上の危険箇所、給水可能場所、病院等を確認した。また、防災地図をもとに、自宅近辺の避難所、広域避難所、給水拠点などを確認した。 家庭で決めた連絡方法や待ち合わせ場所、学校待機の有無などカードにまとめ、入学時に提出させている。	自治体の防災マップ
36	神奈川県立	高複合	特別活動	人権教育講話	社会生活を営む上で多様性を認めることが重要視されている。生徒が他者を理解し、共生社会を生きる上で必要な知識、考え方を養う。	講師：本校SSW 教材：講師が用意したスライドと手元資料
37	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全教室	自転車の特性、自転車の安全な利用、自転車は交通弱者であり被害者となりやすい事例を考える。また、事故を起こした際の運転者の責任等について理解を深め、交通ルールを再確認させるとともに、自転車に乗る際の安全意識を向上させる。	講師：近隣警察署から派遣された警察官の講師 教材：講師が用意したスライド等
38	神奈川県立	高1	特別活動	人権教育「めぐみ」	映像教材「めぐみ」を視聴し、拉致被害者の現状について知ることにより、人権を守ることとともに命の大切さについて知る機会とした。	
39	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育	地域との連携・協力のもと生徒自らの安全と他者の安全にも貢献できるように実践的な防災訓練等を実施した。災害時の注意について全体講話を行い、その後消火訓練や応急手当、搬送訓練などを行うことにより、命を守る大切さを学ぶことができた。	地域消防署の協力を得て実施

40	神奈川県立	高1	特別活動	性感染症予防講演会	横浜国立大学の物部教授をお招きして、1学年対象に実施した。高校生の身近な性に関する諸問題について、社会背景や性差などに関連させながら理解するとともに、エイズや他の性感染症の恐ろしさを知ること、自分自身だけではなく他者の命も大切にする意識を高めることができた。	横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程 保健体育 教授
41	神奈川県立	高複合	特別活動	いのちの授業	パンダの出産の場面を映像を見て、「いのち」について感じたことを言葉で表現する活動を行った。様々な生育歴や経歴を持つ生徒が在籍する定時制の生徒に配慮して、パンダの出産場面とした。「(出産は)命がけなんだ」「生命の神秘を見たと思います」「自身と赤ちゃんの命の狭間でよく耐えていた」などの感想があった。	DVDを全学年で鑑賞
42	神奈川県立	高1	特別活動	消火器訓練 「初期消火法」	火災が発生した場合、初期の段階では現場にいる者が周りの者に火災の発生を知らせるとともに、消火器による初期消火にあたる必要がある。消火器による初期消火が可能なのは、炎が天井に届くまでであり、天井に炎が燃え移ったら、自分のいのち(身)を守るために速やかに避難することが重要との説明を聞き、頷いている者もあり、火災発生現場に居合わせた場合にどのタイミングで避難しなければならないかを理解した。この後、消防署員による消火器使用の模範訓練を見学し、訓練用消火器を用いて火元をイメージした的へ放水する訓練を参加者全員が実施した。生徒は、消火器で炎のどの部分に消火剤を噴出しなければならないかを学んだ。	訓練の指導は消防署員が実施した。
43	神奈川県立	高1	特別活動	地震体験車 「過去に災害を起こした地震及び予想される南海トラフ地震の揺れの体験」	生徒は消防署員の指導のもと、地震体験車を用いて、関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災の地震の揺れと将来予想される南海トラフ地震の揺れを体験した。体験の前に地震の揺れが縦揺れと横揺れの複合した揺れであり、たとえ地震体験車であっても、自分の身の安全を守るには近くにある移動しない物に掴まなければならない危険であるとの説明を受けてから、参加した生徒全員が模擬地震を体験した。生徒の中には、地震の揺れの大きさに驚いている者もあり、消防署員から、実施には家具等は移動するので固定していないと危険であること、地震を感じたら身を守る体勢、特に頭を守るような姿勢を取ることが重要であるとの説明を受けた。	地震体験車の運用及び安全管理は消防署員が実施した。
44	神奈川県立	高2	特別活動	生と性 健康教育講演会 「ふれあいの性・生殖の性」	高校生にとって身近な問題である「性」について、科学的にとらえ、生殖の性、ふれあいの性について理解することにより、一人ひとりがより良く生きることを考える機会となった。 また、妊婦体験では胎児の予想外の重さに驚いている生徒が多くみられた。階段の昇降も体験し、妊婦に対する思いやりの気持ちも芽生えたようである。	講師は、本校養護教諭。 テレビにスライドを映しながら、視覚的にもわかりやすい内容にした。
45	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全教室 「交通事故から命を守る」	高校入学とともに、通学範囲が広がったり、オートバイの免許を取得したりなど、交通事故に遭遇する機会が増えてくる。 交通安全のために守るべき基本的なマナーやルールを理解し、交通安全に対する意識を高めた。また、自転車、オートバイ等で加害者になった時の責任についても考えた。交通事故のビデオを見て、その悲惨さに、あらためて交通安全の大切さを意識した生徒が多かった。	講師は、田浦警察署交通課の職員。 交通安全に関するビデオ。啓発用パンフレットなどを活用し、交通事故の現実について考えることができた。 複合学年は全学年。

46	神奈川県立	高複合	特別活動	命の大切さ	<p>新聞記者である講師が、命について、取材活動を通して感じたことを話した。人命にかかわる事件を取材した際には、加害者の命についての認識の軽さや、被害者の本当は生きたかったと思う気持ちなどを説明した。</p> <p>心無いSNSの投稿により、自殺してしまう人が出てしまったことを取り上げ、命を守るために、情報の取り扱いに十分注意すること等の説明をした。</p> <p>こころサポート事業として実施。</p>	1～4年次対象 講師：読売新聞社 横浜支局長
47	神奈川県立	高複合	特別活動	スケアード・ストレイト方式による自転車交通安全教室	<p>11月8日（火）グラウンドにて全校生徒を対象に実施した。</p> <p>シャドウスタントプロダクションによる、生徒が巻き込まれやすい自転車事故を中心に交通事故のスタントを見て、事故に対する交通安全の意識を高めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講師はシャドウスタントプロダクション 協力 平塚警察署交通総務課、神奈川県警察本部
48	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育	<p>防災の怖さを知り、命を守る行動が出来るようにすること、災害時の自分の行動をシミュレーションし、必要な行動、対策すべきことをイメージすること、災害後や災害前にできることを考え、日常の防災意識を高めることを目的とした。具体的には、三浦半島活断層調査会顧問の浅見氏を講師に迎え「知って備える！わが身の安全。家族の安全。」をテーマに身近にある活断層の調査結果・今後の予測などについての講演会を行い、アンケートを実施した。結果防災意識が高まったことが分かった。</p>	全学年に向けて実施
49	神奈川県立	高1	特別活動	「性の健康」について	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の一環として、藤沢市保健所の協力のもと「性の健康」について講演をいただいた。（2年次も参加） 前半は基本的な男女の性の違いを認識し、その上で望まない妊娠を未然に防ぐための性に関する知識やスキルを学ぶことができた。 後半では人権やジェンダー観、性感染症について話をしていただき、性の多様性を含めた幅広い性に関する知識を高め、自己の心身の健康にどうつなげていくかを考える場となった。 	（講師）本校防災教育担当職員
50	神奈川県立	全学年	特別活動	防災訓練「火事からいのちを守る」	<ul style="list-style-type: none"> 事務室配電盤より出火、校舎内は全て停電し、延焼の恐れありという想定での避難訓練を行った。（12月にも） 夜間定時制で実際の災害時にも落ち着いて行動できるような実践力を養った。 生徒は、教員の指示に従って、いのちを守るために適切な行動をすることができた。 訓練の後に講話を聞き、災害が起きたときにどのように行動すればよいかを考えることができた。 	<p>（講師）本校防災教育担当職員</p> <p>（配付資料）防災避難訓練に関する本校作成のプリント</p>
51	神奈川県立	全学年	特別活動	薬物乱用防止講演会	<ul style="list-style-type: none"> 大麻を所持するなど検挙される未成年者が全国的に増加傾向にある。また、ネットの普及により薬物がより身近な存在になっている。今回は薬物乱用について、未成年者の薬物乱用が心身にもたらす様々な悪影響を学び、各自の健康維持増進に繋げる。同時に、依存症の恐ろしさを学ぶことで、薬物乱用防止教育とする。 	<p>（講師）藤沢警察署生活安全課</p> <p>（配付資料）スライドによる</p>

52	神奈川県立	高2	特別活動	救命講習	生徒が自助・共助の意識をもち、災害時に被災者のいのちを守ろうとする意欲を高め、いのちを守るために必要な行動力を育成するため、防災訓練において2年生全員が心肺蘇生法を体験した。体験を通して、いのちを救うことの大変さといのちの尊さを味わう機会を設けた。	講師：藤沢北消防署員 教材：心肺蘇生用の人体模型3体
53	神奈川県立	高1	特別活動	交通安全スクエアードストレイト	本校では多数の生徒が通学に自転車を使用しており、通学路には坂道などの危険な箇所もある。生徒が、交通事故を未然に防止し、自らの命を守るためのにも適切な運転に努めるよう、スクエアードストレイトを通じて交通事故の恐ろしさを実感させ、命の大切さを改めて振り返る機会を設けた。	講師：(有)シャドウ・スタントプロダクション 教材：スタントカーなど
54	神奈川県立	高2	特別活動	保健学習会	平成31年度からの3年間、妊娠に関する相談、性感染症に関する相談が複数件あった。相談を通して、①性に関する正しい知識をもっていないこと、②将来の見通しをもっていないこと、③相手の気持ちを考えることが難しいこと、の3点の課題が明らかになったことから、性感染症の最新の現状、性感染症がどのように拡散するかを知り、性行動において、相手を大切にすることの具体的な行動を考える機会とする。水の実験を通して性感染症の拡散を疑似体験した。	① DVD「最新版 性感染症」視聴 ② 性感染症の復習 ③ 水の実験と解説
55	神奈川県立	高複合	特別活動	「見た目問題とルッキズム」	アルビノ（眼皮膚白皮症）の当事者である講師から「見た目問題」について学んだ。特別に気を遣ったり触れたりしない「好意的無関心」の必要性を再確認した。生徒の感想には「実体験を聞き、様々な価値観があると考えた」という内容のものが多く、多様性に対する理解を深めていた。一方でアルビノの存在を知っていた生徒からは「もともと見た目を問題視していない」といった声も聞かれ、自身の行動を振り返るきっかけにもなったようである。	高1～高3生徒対象に実施。 講師は社会福祉士、精神保健福祉士。「見た目問題」について発信をしている
56	神奈川県立	高複合	特別活動	防災訓練	災害時の学校における避難ルートや心得を再確認するだけでなく、学校と自宅間での災害を想定し、地区別に集まり助け合いができるように生徒同士で顔合わせをした。担当教員は災害時のルールやマナー、助け合いの様子について東日本大震災など自身の経験を例に、災害時に自分たちにできることなどを話した。災害時だけではなく、普段の生活の中でも、人のいのちを救うために自分たちに何ができるか考え出した生徒もいた。	防災マニュアル
57	神奈川県立	高複合	特別活動	エイズ性感染症講演会	様々な性感染症について知ること、自分を大切にし、相手を理解し思いやりを持つことの大切さを学んだ。さらにいのちの重さに気づくことで、エイズ・性感染症の危険性についての認識を深め、正しい性意識を身につけて健全な男女の人間関係を築いていくことの大切さを学んだ。	講師は小田原保健福祉保健予防課の講師 講師制作PP「性感染症とは」
58	神奈川県立	高複合	特別活動	津波想定合同訓練	想定される大地震に備え、生徒の安全確保に必要な垂直避難訓練及び津波避難施設（ビル）に本校が指定されているため、地域と連携し災害時に速やかに対応できるように準備し情報を共有した。感染症対策のため、あらかじめ指定した避難経路で、4階に避難した。	支援センターから60名・自治会から3名の参加があった。

59	神奈川県立	高複合	特別活動	やさしい日本語について考える	子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中、「やさしい日本語」に言い換えることで、他者への思いやりを育む。担任が標準の日本語からやさしい日本語への直し方をレクチャーしたあと、生徒はグループで説例について話し合う。グループごとに考えた表現を発表し、担任は変換例を紹介する。	講師は、担任。 教材は公益財団法人神奈川県国際交流財団「やさしい日本語でコミュニケーション」等を参考に作成。
60	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育「災害時の対応や状況を考える」	災害が発生した場合の帰宅経路および、その経路に関してどのような状況なのかを考え、また災害発生時の対応や状況について小田原市ハザードマップなどを用いて、命を守る行動について考えさせた。	全学年 帰着地経路探索 ハザードマップ
61	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全について	交通安全講話を実施し、損害保険について自賠責保険・自動車保険・傷害保険等の違いについて学び、日常で起こりうる事故によって相手にケガを負わせてしまった場合の事例として、高額な補償が必要となった事故の概要に触れながら、もし加害者になってしまった場合の対処手順を確認することで遵法の大切さを伝えるとともに、生命尊重と思いやりの精神を持つことの重要性を伝えた。	全学年に実施
62	神奈川県立	高複合	特別活動	健全な食生活の実現に向け、食に関する様々な知識と食を選択する判断力を身につける	夜間定時制課程で学校生活を送る場合、摂食のリズムや栄養バランスが保ちにくい傾向がある。それらに対する注意喚起のため、食育指導を行った。ICTを活用し、食生活について1日に「何を」「どれだけ」食べたら良いかといった食事のバランスについて学び、仮定した高校生に対して最適だと思われる献立をグループごとに考え、イラストで実際に並べて発表することで互いの理解を深めた。	全学年に実施
63	神奈川県立	高1	特別活動	性感染症予防講話	助産師を講師として招き、子どもを授かることの尊さや、パートナーを思いやる心が大切であるとの話を聞いた。また、新生児の人形を抱くことでその小ささや弱々しさを体験した。性感染症の種類や潜伏期間、自覚症状など具体的な話を聞くことで、我が事として考えることができたようで、子宮頸がんワクチンの接種に行こうと思ったと感想を書く生徒もいた。	講師はNPO法人ピルコンスタッフ
64	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全教室	市役所から講師を招き、道路交通法の規定や自転車を安全に乗るルールなどを学んだ。スライドやDVDを見て、自転車の基本となるルールを確認し、交通事故の事例も交えながら自転車に乗る際の責任感を高めた。	講師： 茅ヶ崎市役所職員
65	神奈川県立	高複合	特別活動	火災避難訓練	火災から命を守るために、約1200名の生徒・教職員がグラウンドに避難した。その際に、階段や廊下で転倒することが無いように集中してすみやかに避難することを心掛けた。	本校防災訓練担当教諭
66	神奈川県立	高複合	特別活動	かながわシェイクアウト訓練	大きな揺れを感じたら、まず身を低くして、机やテーブル等が近くにあれば、その下に入り頭部を低くして、落下物から身を守り、自分の身の安全が確保できたら、まわりの人の援助（協助）にまわり、救助する訓練をした。	本校防災訓練担当教諭

67	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育「地震・津波からのちを守る」	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRの時間を活用して、生徒に対して地震発生の連絡と発生時にとるべき態勢の指示、避難誘導の具体的経路の説明等を放送により実施し、「いのち」を守るためにすべきことを考えた。 ・逗子市ハザードマップを用いて、地震により想定される津波の到達地点と到達までの所要時間に対し、周辺の地形や建物を確認しながら、自分がいる場所からどこへ避難するのが最も適切かというシミュレーション(DIG)をグループワークにより実施した。生徒は被災を防ぐための正しい防災方法と避難経路を理解し、確認した。 	1年、2年、3年 逗子市ハザードマップ
68	神奈川県立	高複合	特別活動	防災講話「地震から命を守る」	地震が起きた時の学校での身の守り方について、再確認する講話を行った。生徒は直前に防災訓練を行い、校舎から短時間で避難できるよう実践していたため、地震が起きた時の対応について真摯に受け止めていた。いつ地震が起きても自分たちで身を守ることができるように、それぞれ考えておくことが大切であると、再認識したようであった。	管理職が行った。
69	神奈川県立	高複合	特別活動	防災学習	県西部を震源とする大規模地震の発生を想定。地震にともなう火災、停電という状況の中で、自身の身の安全を確保しつつ、落ち着いた行動がとれるよう訓練を行った。また、帰着方面別に集合してシェイクアウト訓練を行い、机の下に伏せて危険を回避する行動をとった。教員の指示のもと、経路を確認しながら校外へ避難する行動を確認することができた。	日本赤十字が作成している教材を参考に防災学習を実施した。今年度は、夜間中学校（併設）との合同で訓練を行った。
70	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全講話	オンラインによる実施。GoogleMeetを活用して各教室へライブ配信し、交通安全に関する動画視聴とクイズを行った。クイズは1問1答式（全20問で○×式）。各問ごとに採点、解説を行った。実施後はGoogleFormによるアンケートを実施した。アンケートの結果、参加者のほぼ全員が、この講話が交通への意識・関心を高めるのに「（おおいに）役立った」と回答した。	警視庁や各県警のHPの資料を参考に教材制作した。本校教諭（生活指導G）が講師役となった。
71	神奈川県立	高複合	特別活動	スケアードストレイト	本校生徒は自転車通学が多く、最寄りの駅から徒歩で通学している生徒もいる。近年自転車に関する交通ルールが改正され、周知、指導はしているが、依然、登下校中の自転車事故が発生している。今回は、一人ひとりが危険性を改めて感じ、被害者・加害者にならないよう、日々の行動に反映されるようスケアードストレイトによる交通安全指導を行った。生徒たちは、真剣な様子で参加し、講師の話聞いていた。激しい様子を見て驚くこともあったが、改めて危険性を感じていた。	講師は相模原市職員（実技はスタント会社）
72	神奈川県立	高複合	特別活動	防災教育	災害発生時の具体的な対応を学ぶことを目的とし、地域の消防署との連携のもと、全校での避難訓練と、学年ごとの各種訓練を行った。1学年は初期消火訓練を行い、火災発生時の対応や消火器の使用方法を学んだ。2学年は煙体験訓練を行い、煙の恐ろしさと適切な避難方法を体験した。3学年は図上訓練を行い、避難経路の確認や防災備蓄品の重要性を学んだ。これらにより、災害発生時の「いのちを守る行動」を体験的に学び、日常的な防災意識が向上した。	講師：相模原消防署上溝分署員 複合学年：高1～3 教材：自主作成教材（図上訓練）

73	神奈川県立	高1	特別活動	交通安全教室	本校周辺は交通量も多く、毎年何件も交通事故が発生している。自転車通学になって間もない1学年を対象に、外部講師による交通安全の講演を行った。ドライバー・自転車・歩行者の立場から見た注意すべきポイントや事故回避方法について学び、生徒の交通安全意識が向上した。事故ゼロを目指し、危険を予測する力や回避するための適切な判断力を育成した。	講師：一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）
74	神奈川県立	高3	特別活動	長崎の平和学習 ～命の尊さを見 つめて～	本校研修旅行の平和学習として、原爆資料館の見学を行った。展示資料を通して、長崎への原爆投下に至る経緯、その影響などを学習した。さらに、平和を祈念する長崎の各施設の活動も紹介した。終了後、生徒から自発的に折り鶴を送りたいとの意見があり、全校生徒で作成を行い、長崎原爆資料館へ贈呈した。	
75	神奈川県立	高1	特別活動	「自分を好きに なりたいたいと悩ん でいる人へ」	この講演で、講師は自身の経験談を踏まえて、自分を大切にすることやコミュニケーションやコンプレックスとの向き合い方、自信のつけ方、頼られることの大切さ等について話された。生徒の振り返りシートからも「人生観が変わった」、「自信を持てるようになった」、「気持ち became 楽になった」というような意見が多く見られた。自己肯定感が低い生徒が多いとされる中、自分の個性を大切に認められるきっかけとなった。人権尊重の理念とジェンダーについての理解を深め、人権感覚を高めることにより、豊かな人間性や社会性を育み、困難と生きる力強さ、自他の違いを認め合う心、他人を思いやる心の育成を図ることが出来た。	講師は元男性でありながら、性転換手術の上、戸籍上も女性になったコミュニケーション講師。
76	神奈川県立	高複合	特別活動	考えるってどう ゆうこと？ ～知ることと考 えること～	「考える」ってどういうことか自分で説明できることを目標に実施した。アイスブレイクを取り入れながらグループワークを実施。まずは、絵を見ながら何が描かれているかを考え、さらにどんな絵なのか想像力を膨らませながら考えてグループ内で話し合い発表を行った。知ること、そしてなぜだろう、どうしてだろうと考えるきっかけになった。また、相手の話を聞いているときは共感したり、自分と違う意見があっても認め合うことで、自己肯定感を高めることができた。	創価大学教授
77	神奈川県立	高複合	特別活動	自分を大切にす るワークショップ	暴力ってどんなものがあるのか、もしも受けた時は、NO、GO、TELLをやってみよう。生きていくためになくしてはならない権利、護身術について学んだ。ロールプレイの中では、自分の気持ちに気づく、自分の気持ちを伝える、相手の気持ちにも耳を傾けることも一緒に学んだ。	NPO法人 エンパワメントかながわ 全学年
78	神奈川県立	高複合	特別活動	いじめ	「生活についての実態調査」を各クラスで実施し、その中で「『いじめ』についての調査」も行った。同時にLHRの中で担任がいじめについて深く考えさせる働き掛けを行い、生徒たちは自分自身の生活や他者との関わりを振り返る機会となった。また、いのちの大切さや人間の尊厳について学び、自他ともに大切にする思いやりの気持ちを育んだ。	クラス担任 高1・高2・高3

79	神奈川県立	高1	特別活動	性感染症予防	『いのちの授業 ～生命と性の健康教育～』をテーマとし、本校生徒1学年を対象に講演をオンラインで行った。さまざまな事例やデータをもとに、生命の尊さについて理解し、生命・性(性感染症予防等)について学んだ。また、自分自身と相手の体を大切にするために必要な知識を学び、生涯にわたって自他ともに思いやることの大切さについて再認識した。	医療系大学看護学科教授
80	神奈川県立	高複合	特別活動	高校生のこころサポート事業	クリニック医師を講師に招き、統合失調症や起立性調節障がいについて生徒、保護者、教員を対象にした講話を実施した。 生徒の中には、自らの病気と向き合いながら通信制で学びを続けている者もあり、周囲への理解を求めた。 講演をきっかけに関連した病気について、多くの生徒が関心を持つことになった。	講師 臨床心理士 全学年
81	神奈川県立	高1	特別活動	保健教育 「心肺蘇生法」	学校で心肺停止状態になった高校生に対して、心肺蘇生が行われずに亡くなってしまった事例を挙げた。生徒たちは、重要なのは心肺蘇生法の正しい知識だけではなく、その場で自分が行動することだということを理解し、「助かるはずの命」を「助かるはずだった命」にしないという意味のもとで学習に取り組んだ。そして、心肺蘇生法の手順とポイントを確認したうえで、ロールプレイング方式で実技演習をおこなった。一人ひとりが真剣に取り組み、上手に胸骨圧迫をできていない生徒に対してはアドバイスをするなど、積極的に共習する様子が見られた。授業の振り返りでは、知識や技術を習得できたため、命を救うために勇気をもって行動したいという生徒の思いも聞くことができた。	
82	神奈川県立	高複合	特別活動	芸術鑑賞教室 「未来」	いじめによる自殺をテーマにした演劇を鑑賞した。重いテーマではあったが、生徒にもいろいろ考えさせる内容で、「いじめは、加害者側も被害者側も、日常を狂わされること」、「家族も巻き込まれ、家庭が崩壊すること」、「いじめをした人は、亡くなった人の命を一生背負って生きていくということ」などを心に刻んだ様子だった。	1学年～3学年
83	神奈川県立	高1	特別活動	「生きるとはどういうことか？ ～未曾有の自然災害が私達に教えてくれたこと～」	宮城県在住の中学生として、東日本大震災を実際に体験した講師の講演を聞いた。震災当時の動画を視聴して、震災の恐ろしさを実感するとともに、自分の意思とは関係なく命が突然に奪われるということがどのようなことであったか、多くの尊い命が奪われた未曾有の大震災を教訓として私たち日本人が学んだことは何であったかを、考えさせた。	講師は、東日本大震災を体験した本校職員。
84	神奈川県立	高複合	特別活動	防災訓練	富士山の噴火が起こった場合に神奈川県内の溶岩流の被害が予想される地域を確認した。噴火後どのくらいの時間で溶岩流が到達するのかを調べ、どの方面へ、いつまでに避難するのが望ましいのかを地域ごとに確認し、皆で共有した。	富士山噴火のハザードマップと神奈川県内、学校周辺の白地図
85	神奈川県立	高複合	特別活動	交通安全教育 (スクエアドストレイト)	スタントマンが実際に自動車や自転車を使って交通事故を再現することにより、事故を見た生徒たちが事故に対する恐怖や自分たちの危険行為を認識してくれることを目指した。そして交通安全に対する意識を高め、自らのいのちや他者のいのちを守る行動を行うよう啓発した。	(株) オフィスワイルドへ講師派遣を依頼

86	神奈川県立	高複合	特別活動	物資・食料支援 「農業高校だから こそできること」	本校・農業クラブ本部では県内のNPO法人と連携し、フードバンク活動を行っている。校内で不要となった防災保存食や日用品を回収し、ひとり親支援活動に参加して生活困窮者の方へ寄付している。参加する中で支援品に生鮮食品が不足していること、新型コロナウイルス感染症に伴い、生活に困窮する方が多くいる現状を知った。農業クラブ本部役員は各学科・各学年の生徒が所属していることから、私たちは実習で栽培し、余ってしまった野菜や販売には適さない規格外となった野菜を集め、直接届けることができた。	(該当生徒) 農業クラブ本部役員25名 高1・高2・高3 (ご協力) NPO法人フードバンク横浜 理事長
87	神奈川県立	高1	特別活動	防災体験訓練	地震についての講話、起震車体験、消火体験、煙ハウス体験、心肺蘇生法・AEDの取り扱いを実施した。災害が、いつ起きてもおかしくない状況を自分のことと捉え、防災意識を高める機会となった。熊本や東北の震災の話の折りには、友人や家族の命の安否確認方法について会話をする姿が見られた。	海老名市役所(4名) 海老名消防署(15名)
88	神奈川県立	高1	特別活動	交通安全教室	悪天候のため体育館内での実施となったが、スタントマンによる事故の再現演技によって、交通事故の怖さを再認識することができた。自転車を通学に利用する生徒も多いことから、事故の被害者にも加害者にもなりうる危険性があることを警察署の方の講話から改めて学べたことは有意義であった。命を大事に思う機会となった。	海老名警察署 JA共済 交通事故 対策活動運動事務局 スタント会社
89	神奈川県立	高複合	特別活動	防災訓練	生徒が主体となり防災訓練を企画、実施した。発災時に起こりうる様々な想定を事前にシミュレーションし、全生徒が訓練の中で、地震と同時に起こる火災や負傷者の救護の実践を通して、発災時の実践力を高め、また、映像による事前学習や訓練後の職員からの講話を通して、自他の生命を尊重する態度を育むことができた。	防災委員会の生徒が中心となり、約半年かけて、生徒主体の防災訓練を企画、実施した。
90	神奈川県立	高1	特別活動	防災講演会	日常的に非常食を食べて、食べたら買い足すというローリングストックについての説明があった。土砂災害や洪水などは事前に予測ができるため、常に天気注意到注意を払う必要があることを学んだ。また、予想される南海トラフの大地震について、津波対策の重要性を再確認した。	大磯町役場 危機管理課
91	神奈川県立	高1	特別活動	薬物乱用防止講座	本校生徒は、ほとんどが大学等へ進学するが、薬物について正しい知識を身に付けていないと、高校卒業後に様々なトラブルに巻き込まれることが考えられる。神奈川県警と大磯警察署の協力により、講師の説明や展示資料から薬物中毒の実態と命の大切さを学ぶことができた。	大磯警察署 生活安全課
92	神奈川県立	高1	特別活動	薬物乱用防止について	動画視聴による「薬物乱用防止講演会」を体育館で行った。薬物の過剰摂取による深刻な身体的影響、命を落とす危険性、自殺の可能性等、体験者により薬物利用がもたらすのちへの危険性が語られた。講演後、講演の感想を問うアンケートを実施し、生徒から「薬物の怖さ」「心身・命への危険性」「家庭や将来への影響」等を認識するコメントが寄せられた。	講師は神奈川県警察の職員。 (教材) 「危険ドラッグ乱用防止啓発」 (教材) 「薬物体験者たちの証言～壊れる生命」

93	神奈川県立	高1	特別活動	性に関する講演会	「性」に関する正しい知識を持ち、自己の行動に責任をもって生きることの大切さやよりよい人間関係のあり方について講演会を実施した。婦人科医の専門的な視点から妊娠、避妊方法に関することや、性感染症の予防、性的同意について具体的に学ぶことができた。講演会を通して、ひとりひとりが将来のことを具体的に考え、自己の行動に伴う責任や自他ともに尊重し合える人間関係の構築が大切であることを学び、自分自身に関わることとして意欲的に受講する様子が見受けられた。また、困ったときに相談できる窓口や地域の関係機関を伝え、一人で抱え込まず周囲に頼る力が必要であることを伝えた。	外部講師：神奈川県産科婦人科医会 学校医委員会委員長 婦人科医
94	神奈川県立	高3	特別活動	共生・いのち・生きる	民間介護施設の利用者が、一方的に介護を受けるだけでなく子どもの世話などの支援活動に関わることで、社会に必要とされる喜びや誇りを実感する内容のDVDを視聴した。	(教材) にんげんどキュメント 笑顔の “大家族”～富山・デイケアハ ウスの日々～(NHK厚生文化 事業団 福祉ビデオライブラ リー)
95	神奈川県立	高2	特別活動	平和教育 「被爆地長崎から考える」	予定されていた国外研修旅行からの変更であるが、本校の教育理念の柱である平和学習をより深化させるため、原爆資料館にて平和講話を聞き、事後学習の中でその内容を報告書にまとめた。	『長崎原爆資料館資料 資料館見学・被爆地廻 「平和学習」の手引き 書』